ジョージア産ワインの英国向け輸出、2026年1～10月に52％増

ジョージア産ワインの販売が増加した市場は3カ国のみ。英国向け出荷量は355,930リットルに達した

2026年11月16日（月）



11月16日（月）に発表された速報値によると、2026年のジョージアから英国へのワイン輸出は大幅に増加し、年初から10月までの金額、数量ともに前年を上回った。

ジョージア国家ワイン庁のデータをHarpers Wine & Spirit Trade Newsが報じたところによると、コーカサス地方に位置する同国から英国へのワイン輸出額は、2026年1～10月に約180万ドルに達した。前年同期比で52％増となる。輸出量は50％増の355,930リットルだった。

公表された増加率と2026年の概算輸出額に基づくと、ジョージアから英国市場へのワイン販売額は前年より約616,000ドル増えたことになる。数量では、2025年1～10月に比べて約118,643リットル

多く出荷した。数値は速報値で、輸出額は概数として発表されている。

英国は、ジョージア産ワインの主要な輸出先と比べると、依然として比較的小規模な市場だ。それでも同貿易専門誌によると、2026年1～10月の輸出額では12位に入った。最新の数値は、海外の顧客層を広げようとするジョージアにとって、英国市場の重要性が高まっていることを示している。

データはまた、英国市場での価格水準がジョージアの輸出全体を上回っていることを示している。Harpersによると、対象期間に英国で販売されたジョージア産ワインの平均価格は1リットル当たり約5.10ドルだった。ジョージアの世界向け輸出の平均価格である1リットル当たり3.13ドルを大きく上回る。この差からは、英国の買い手が、ジョージアの世界向け輸出全体よりも平均単価の高いワインを組み合わせて仕入れていることがうかがえる。

報道によると、2026年にジョージア産ワインの販売が増加した輸出市場は3カ国のみで、英国のほかはドイツとトルコだった。英国市場は輸出額でジョージアの上位市場には入っていないものの、今回の伸びは注目に値する。

業界関係者は、英国の酒類流通全体で販売網が広がったことが改善につながったとみている。Wines of Georgiaの英国キャンペーン責任者、Sarah Abbott氏は、現在、英国の大手スーパーマーケット・グループの大半でジョージア産ワインが取り扱われていると述べた。また、独立系ワイン販売店で確かな存在感を築き、レストランのワインリストにも以前より多く登場するようになったという。

Abbott氏は、市場開拓に着手した当初、これほど小売店やレストランで広く扱われるようになるとは想像しにくかったと語った。ジョージア産ワインの品ぞろえは流通業界のさまざまな分野で受け入れられることを示しており、同国は現在、英国で強固な販売基盤を築いているという。

10月にも販促活動が続き、英国の小売店やレストランが「ジョージア・ワイン・マンス」のイベントに参加した。Wines of Georgiaによると、英国向けウェブサイトの訪問数は2026年9月比で59%増加し、ユニーク訪問者数も同期間に62%増えた。ウェブサイトの数値は販売を直接示すものではないが、このカテゴリーへの消費者や業界の関心が高まっていることを示す材料となる。

ジョージアは世界有数の歴史を持つワイン生産国であり、従来の取引先以外の輸出市場でもワインの認知度を高めようと、長年取り組んできた。今回の英国向けデータは、同国の取り組みが英国で実を結びつつあり、同じ期間に出荷量と輸出収入の双方が増加したことを示している。